地 理 歴 史

1　教育課程の編成

(1) 基本的な考え方

地理歴史科では、世界史、日本史、地理においてそれぞれ標準単位数２単位と標準単位数４単位の科目を設置して、多様な選択を可能にし、生徒の特性、進路等の一層の多様化に対応しようとした従来の趣旨を継承している。

また、履修についても、従来と同様に、「世界史Ａ」及び「世界史Ｂ」のうちから１科目並びに「日本史Ａ」、「日本史Ｂ」、「地理Ａ」及び「地理Ｂ」のうちから１科目の合計２科目・４単位以上を必履修としている。

(2) 配慮すべき事項

教育課程の編成に当たっては、総則との関連において、次の事項に配慮することが必要である。

ア　道徳教育との関連

学校における道徳教育は、教育活動全体を通じて充実を図るものとされており、地理歴史科に属する科目においても、その特質に応じて、適切な指導を行うこと。

イ　学校設定科目

学校においては、地域、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じ、特色ある教育課程の編成に資するよう、教科に属する科目以外の科目を設けることができることとされており、地理歴史科において学校設定科目を設ける場合、地理歴史科の目標に基づき、科目の内容の構成については関係する各科目の内容との整合性を図るよう十分配慮すること。

ウ　言語活動の充実

生徒の思考力、判断力、表現力等を育む観点から、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。

(3) 特色ある教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、生徒の特性、進路等に応じた適切な科目の履修ができるようにするため、多様な科目を設け、生徒が自由に選択履修できるよう配慮すること。

2　指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成

地理歴史科の目標を達成するため、教科全体として調和のとれた指導が行われるよう留意するとともに、中学校社会科及び公民科との関連並びに地理歴史科に属する科目相互の関連に留意すること。なお、各科目における指導計画の作成と指導上の配慮事項としては、次のようなことが挙げられる。

ア　世界史Ａ・世界史Ｂ
(ｱ) 年表、地図その他の資料を積極的に活用したり、文化遺産、博物館や資料館の調査・見学を取り入れたりするなどして、具体的に学ばせるように工夫すること。
(ｲ) 主題を設定して行う学習（世界史Ａは内容の(1)のア、イ、(3)のオ、世界史Ｂは内容の(1)、(2)のエ、(3)のエ、(4)のオ、(5)のオ）の実施に当たっては、適切な時間を確保し、年間指導計画の中に位置付けて指導すること。

イ　日本史Ａ・日本史Ｂ
(ｱ) 年表、地図その他の資料を一層活用させるとともに、地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるよう工夫すること。
(ｲ) 歴史を考察し表現する学習（日本史Ａは内容の(1)、(2)のウ、(3)のウ、日本史Ｂは内容の(1)のア、(2)のア、(3)のア、(6)のウ）の実施に当たっては、年間指導計画の中に明確に位置付けて計画的・継続的に指導すること。

ウ　地理Ａ・地理Ｂ
(ｱ) 地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。

(2) 内容の取扱い

指導に当たっては、各科目において、次の点に留意すること。

ア　世界史Ａ
(ｱ) 各時代において世界と日本を関連付けて扱うこと。また、地理的条件とも関連付けるようにすること。
(ｲ) 近現代史の指導に当たっては、次のとおり配慮すること。
①客観的かつ公正な資料に基づいて歴史の事実に関する理解を得させるようにすること。
②政治、経済、社会、文化、宗教、生活など様々な観点から歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な見方を養うこと。

イ　世界史Ｂ
(ｱ) 各時代における世界と日本を関連付けて扱うこと。また、地理的条件とも関連付けるようにすること。
(ｲ) 近現代史の指導に当たっては、次のとおり配慮すること。
①客観的かつ公正な資料に基づいて歴史の事実に関する理解を得させるようにすること。
②各国史別の扱いにならないよう、広い視野から世界の動きをとらえさせるようにすること。
③政治、経済、社会、文化、宗教、生活など様々な観点から歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な見方を養うこと。
④日本と関連する諸国の歴史については、当該国の歴史から見た日本などにも着目させ、世界の歴史における日本の位置付けを明確にすること。

ウ　日本史Ａ
(ｱ) 我が国の近現代の歴史の展開について国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点から考察させること。
(ｲ) 国民生活や文化の動向については、地域社会の様子などと関連付けるとともに、衣食住や風習・信仰などの生活文化についても扱うようにすること。
(ｳ) この科目の指導に当たっては、客観的かつ公正な資料に基づいて、事実の正確な理解に導くようにするとともに、多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成するようにすること。その際、核兵器などの脅威に着目させ、戦争を防止し、平和で民主的な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識させること。

エ　日本史Ｂ
(ｱ) 我が国の歴史と文化について、各時代の国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点から考察させること。
(ｲ) 各時代の特色を総合的に考察する学習及び前後の時代を比較してその移り変わりを考察する学習それぞれの充実を図ること。
(ｳ) 文化に関する指導に当たっては、各時代の文化とそれを生み出した時代的背景との関連、外来の文化などとの接触や交流による文化の変容や発展の過程などに着目させ、我が国の伝統と文化の特色とそれを形成した様々な要因を総合的に考察させるようにすること。衣食住や風習・信仰などの生活文化についても、時代の特色や地域社会の様子などと関連付け、民俗学や考古学などの成果の活用を図りながら扱うようにすること。
(ｴ) 地域社会の歴史と文化について扱うようにするとともに、祖先が地域社会の向上と文化の創造や発展に努力したことを具体的に理解させ、それらを尊重する態度を育てるようにすること。
(ｵ) 近現代史の指導に当たっては、客観的かつ公正な資料に基づいて、事実の正確な理解に導くようにするとともに、多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成するようにすること。その際、核兵器などの脅威に着目させ、戦争を防止し、平和で民主的な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識させること。

オ　地理Ａ・地理Ｂ
(ｱ) 学習過程で政治、経済、生物、地学的な事象なども必要に応じて扱うことができるが、それらは空間的な傾向性や諸地域の特色を理解するのに必要な程度とすること。
(ｲ) 各項目の内容に応じて日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察させること。
(ｳ) 地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実させること。

(3) 指導計画

ア　科目「世界史Ａ」の指導計画（例）

月	週数	単元（項目）	指導項目	指導のねらい	予定時数	留意事項
4	3	(1) 世界史へのいざない	ア　自然環境と歴史 イ　日本列島の中の世界の歴史	・自然環境と歴史、日本の歴史と世界の歴史のつながりに関わる適切な主題を設定し考察する活動を通して、世界史学習の基本的技能に触れさせるとともに、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。	5	・科目の目標に即して基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成するとともに、各時代において世界と日本を関連付けて扱うこと。また、地理的条件とも関連付けるようにすること。 ・年表、地図その他の資料を積極的に活用したり、文化遺産、博物館や資料館の調査・見学を取り入れたりするなどして、具体的に学ばせるように工夫すること。 ・主題を設定して行う学習の実施に当たっては、適切な時間を確保し、年間指導計画の中に位置付けて指導すること。また、主題の設定や資料の選択に際しては、生徒の興味・関心や学校、地域の実態等に十分配慮して行うこと。 ・近現代史の指導に当たっては、客観的かつ公正な資料に基づいて歴史の事実に関する理解を得させるようにするとともに、政治、経済、社会、文化、宗教、生活など様々な観点から歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な見方を養うこと。
5 6 7 8 9	3 4 2 2 4	(2) 世界の一体化と日本	ア　ユーラシアの諸文明 イ　結び付く世界と近世の日本 ウ　ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 エ　アジア諸国の変貌と近代の日本	・近現代世界を理解するための前提として、ユーラシアの諸文明の特質に触れるとともに、16世紀以降の世界商業の進展及び資本主義の確立を中心に、世界が一体化に向かう過程を理解させる。その際、世界の動向と日本との関わりに着目させる。	30	
10 11 12 1 2 3	4 4 3 1 3 2	(3) 地球社会と日本	ア　急変する人類社会 イ　世界戦争と平和 ウ　三つの世界と日本の動向 エ　地球社会への歩みと課題 オ　持続可能な社会への展望	・地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特質と展開過程を理解させ、人類の課題について歴史的観点から考察させる。その際、世界の動向と日本との関わりに着目させる。	35	
計	35				70	

イ　科目「日本史Ａ」の指導計画（例）

月	週数	単元（項目）	指導項目	指導のねらい	予定時数	留意事項
4	3	(1) 私たちの時代と歴史		・現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考える活動を通して、歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる。	2	・我が国の近現代の歴史の展開について国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点から考察させること。 ・科目の目標に即して基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成すること。 ・年表、地図その他の資料を一層活用させるとともに、地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるよう工夫すること。 ・国民生活や文化の動向については、地域社会の様子などと関連付けるとともに、衣食住や風習・信仰などの生活文化についても扱うようにすること。 ・この科目の指導に当たっては、客観的かつ公正な資料に基づいて、事実の正確な理解に導くようにするとともに、多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成するようにすること。その際、核兵器などの脅威に着目させ、戦争を防止し、平和で民主的な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識させること。 ・(1)については、この科目の導入として位置付けること。また、近代、現代などの時代区分の持つ意味、近現代の歴史の考察に有効な諸資料についても扱うこと。 ・(2)のウ及び(3)のウについては、資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能を高めること。(3)のウについては、この科目のまとめとして位置付けること。
5 6 7 8 9	3 4 2 2 4	(2) 近代の日本と世界	ア　近代国家の形成と国際関係の推移 イ　近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢 ウ　近代の追究	・開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、相互の関連を重視して考察させる。	34	
10 11 12 1 2 3	4 4 3 1 3 2	(3) 現代の日本と世界	ア　現代日本の政治と国際社会 イ　経済の発展と国民生活の変化 ウ　現代からの探究	・第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる。	34	
計	35				70	

ウ　科目「地理Ａ」の指導計画（例）

月	週数	単元（項目）	指導項目	指導のねらい	予定時数	留意事項
4 5 6 7 8 9 10	3 3 4 2 2 4 4	(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察	ア　地球儀や地図からとらえる現代世界 イ　世界の生活・文化の多様性 ウ　地球的課題の地理的考察	・世界諸地域の生活・文化及び地球的課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を深めるとともに、地理的技能及び地理的な見方や考え方を身に付けさせる。	44	・科目の目標に即して基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成すること。 ・地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。その際、教科用図書「地図」を十分に活用するとともに、地図や統計などの地理情報の収集・分析には、情報通信ネットワークや地理情報システムなどの活用を工夫すること。 ・地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実させること。 ・学習過程で政治、経済、生物、地学的な事象なども必要に応じて扱うことができるが、それらは空間的な傾向性や諸地域の特色を理解するのに必要な程度とすること。 ・各項目の内容に応じて日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察させること。
11 12 1 2 3	4 3 1 3 2	(2) 生活圏の諸課題の地理的考察	ア　日常生活と結び付いた地図 イ　自然環境と防災 ウ　生活圏の地理的な諸課題と地域調査	・生活圏の諸課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、地理的技能及び地理的な見方や考え方を身に付けさせる。	26	
計	35				70	

3　言語活動を充実する学習指導の実践例

今回の学習指導要領改訂においては、生徒の思考力、判断力、表現力等を育む観点から、例えば、次の①～⑥のような学習活動を取り入れるなどして言語活動を充実させ、授業の工夫・改善を図ることが大切である。

①　体験から感じ取ったことを表現する	②　事実を正確に理解し伝達する	③　概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする	④　情報を分析・評価し、論述する	⑤　課題について、構想を立て実践し、評価・改善する	⑥　互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

(1)　「世界史Ｂ」の実践例

1　単元名　(4) 諸地域世界の結合と変容
　　ウ　産業社会と国民国家の形成

2　本時の目標
(1) アメリカ合衆国の領土拡張の過程を考察させ、アメリカ人の考え方や行動様式を育む上で果たした役割を理解させる。
(2) 南北戦争の原因や経過を理解し、その後の合衆国の発展について考察させる。

3　本時の展開（全９時間予定の９時間目）

指導過程	指導内容	生徒の学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
導入	本時の課題の確認	○教師の【発問１】を受け、ノートに書き出す。 ○書き出したことを発表し合い、本時の課題を確認する。	
展開	領土の拡大 南北戦争の原因と経過	○領土拡張の過程を白地図に色分けしながら記入する。 ○白地図をもとに原因を考察し、経過を年表に整理する。	
	南北戦争後の光と影	○教師の【発問２】を受け、学習方法を考察する。	・各自の学習の構想を立てさせる。
まとめ	本時の課題の解決 （発展学習）	○教師の【発問３】を受け、ノートに整理する。 ○教師の【発問４】を受け、ノートにまとめる。	・教科書の情報を読み取らせ、論述させる。

工夫のポイント

・発問２・発問４により、⑤「課題について、構想を立てさせる」学習活動を取り入れたこと
・発問３により、④「情報を分析・評価させる」学習活動を取り入れたこと

発問１　リンカンについて知っていることをノートに書きだそう！

自分の知識	
他の人から出たこと	

発問２　南北戦争後の様子はどのようにまとめると分かりやすいですか？

発問３　南北戦争後の様子をノートに表にして整理しよう！

光の部分	影の部分

発問４　南北戦争の100年後、アメリカ合衆国はどのようになると思いますか？ノートにまとめてみよう！

(2) 「日本史Ｂ」の実践例

1　単元名　(1) 原始・古代の日本と東アジア
　　ウ　古代国家の推移と社会の変化

2　本時の目標

(1) 平氏政権の性格や成立の意義について理解させる。

(2) 歴史的事象について諸資料から読み取り思考した内容を適切に表現する力を身に付けさせる。

3　本時の展開（全７時間予定の６時間目）

指導過程	指導内容	生徒の学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
導入	前時の学習内容の確認（院政の展開と武士の台頭）	○武士が台頭した背景を確認する。	
展開	平氏政権の成立	○平氏政権成立に至る過程について理解する。	
	平氏の全盛	○諸資料から平氏の全盛の様子を読み取り、ワークシートにまとめる。	・複数の資料を活用させる。
	平氏政権の性格	○平氏政権の性格について考察し、ワークシートにまとめる。 ○各自でまとめた内容についてグループで話し合い、グループの考えをまとめる。 ○グループでまとめた内容を発表する。	・交流を通して一人一人の考えを深めさせる。 ・根拠となる事項を示しながら発表させる。
まとめ	平氏政権成立の意義	○平氏政権の性格や平氏政権成立の意義について理解する。	

工夫のポイント

・ワークシートの活用により、④「情報を分析・評価し、論述する」学習活動を取り入れたこと
・発表や話し合いにより、⑥「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる」学習活動を取り入れたこと

【ワークシート】

○平清盛の業績、平氏政権の政策について次の次の表に分類してみよう

	平清盛の業績 平氏政権の政策
武士的性格のもの	
貴族的性格のもの	
どちらとも言えないもの	
短期政権で終わった理由	

○他のグループの発表で参考になった内容や印象に残った内容をメモしよう。

	平清盛の業績 平氏政権の政策
武士的性格のもの	
貴族的性格のもの	

(3) 「地理Ｂ」の実践例

1　単元名　(3) 現代世界の地理的考察
　　ウ　現代世界と日本

2　本時の目標

(1) 世界の居住、都市問題の一つとして、日本における都市への人口集中の現状と課題について、資料を用いて分析し、考察させる。

(2) (1)を踏まえ、今後の国土形成の在り方について考察させる。

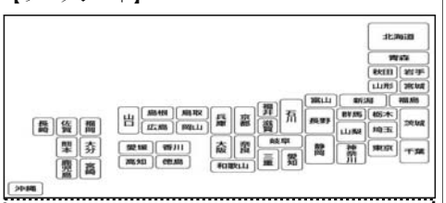
3　本時の展開（全９時間予定の６時間目）

指導過程	指導内容	生徒の学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
導入	前時の復習	○前時の学習内容の要点（日本の過密・過疎問題の歴史的背景及び1960年の各都道府県人口に占める都市人口の割合）を、前回作成したワークシートにより確認する。	・発展途上国の都市問題との違いを踏まえさせる。
展開	日本における都市への人口集中の現状	○資料を参考に、2010年の各都道府県人口に占める都市人口の割合を白地図内に記入する。 ○作成した階級区分図から読み取った事柄をワークシートに記入する。	・階級区分図を基に、適切な情報を読み取らせる。
	日本における都市への人口集中に関わる課題	○都市への人口集中の理由及び問題について、思い付くことを付箋紙に記入する。 ○各自記入した内容についてグループで話し合い、まとめた内容を全体で発表し合う。 ○発表された内容を基に、望ましい都市について、その在るべき姿を学級全体で討論し、仮説とする。	・前時に学習した過密・過疎の歴史的背景を踏まえさせる。 ・発表では根拠を示しながら説明させる。
まとめ	本時のまとめ	○各グループの仮説をノートにまとめる。	

工夫のポイント

・ワークシートの作業３により、④「情報を分析・評価し、論述する」学習活動を取り入れたこと
・ワークシートの作業６により、⑥「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる」学習活動を取り入れたこと

【ワークシート】



＜凡例＞　各都道府県人口に占める、人口10万人以上の都市の人口総数の割合
80%以上　赤　　60～80%　オレンジ
40～60%　黄　　20～40%　緑
20%以下　青

1　凡例に従い、1960年における割合について、白地図を都道府県別に色分けしよう。
2　凡例に従い、2010年における割合について、白地図を都道府県別に色分けしよう。
3　１、２で作成した２枚の地図から読み取れる日本の人口の分布の特徴は何か、記入しよう。
4　都市へ人口が集中する理由として、どのようなことが挙げられるか、付箋紙に書こう。
5　都市への人口集中に伴う問題として、どのようなことが挙げられるか、付箋紙に書こう。
6　理想的な都市としては、どのような姿が考えられるか、話し合おう。

Topic 地理歴史科における中学校社会科との関連及び科目相互の関連

◆　地理歴史科は中学校社会科の学習の成果の上に立って、高等学校生徒の発達段階や科目の専門性を考慮して学ばせるものであり、各科目の内容は、特に中学校社会科地理的分野、歴史的分野との関連が深いことを考慮するとともに、科目相互の関連に留意して指導計画を作成することが大切である。

中学校社会科の改訂のポイント

○　基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得
○　言語活動の充実
○　社会参画、様々な伝統や文化、宗教に関する学習の充実

【地理的分野の改訂の要点】
- 分野目標についての見直し
- 内容構成についての見直し
- 世界に関する地理的認識の重視
- 動態地誌的な学習による国土認識の充実
- 地理的技能の育成の一層の重視
- 社会参画の視点を取り入れた身近な地域の調査

【歴史的分野の改訂の要点】
- 我が国の歴史の大きな流れを理解する学習の一層の重視
- 歴史について考察する力や説明する力の育成
- 近現代の学習の一層の重視
- 様々な伝統や文化の学習の重視
- 我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの充実

高等学校地理歴史科の指導計画作成の留意点

【世界史Ａ・Ｂ】
中学校において、我が国の歴史の背景となる世界の歴史を扱っていることに留意する。

（世界史において）
日本史との関連付け、世界史の中での日本の位置付けに留意する

（日本史において）
国際的な潮流の中に我が国を位置付け、世界の中の日本という視点から我が国の歴史と文化の展開を考察させる

（世界史において）
各時代の歴史を地理的条件と関連付けて扱うよう留意する

（地理において）
歴史的背景を踏まえて考察させる

【日本史Ａ・Ｂ】
中学校において、「各時代の特色」は「我が国の歴史の大きな流れ」の理解のために踏まえるべきものとして位置付けられていることに留意する。

（地理において）
歴史的背景を踏まえて考察させる

（日本史において）
歴史上の出来事の舞台となった諸地域について地図帳や地形図の活用を図りながら学習させる

【地理Ａ・Ｂ】
中学校において、世界の諸地域の地域的特色を学ぶ項目が設けられ、我が国の国土認識と併せて、世界に関する地理的認識の育成が重視されたことに留意する。

▶ 世界史Ａにおける「日本」の扱いの例

小・中学校では、日本と世界の地理や日本の歴史の学習が行われていることから、高等学校学習指導要領では、高等学校の必履修科目である世界史において、例えば「世界史Ａ」の中で次のように「日本」を扱うことが示されており、日本国民にとっての世界史という視点から世界の中の日本の位置や役割を考察することが求められている。

大項目	中項目	「日本」の扱い
(1) 世界史へのいざない		（略）
(2) 世界の一体化と日本	イ　結び付く世界と近世の日本	・ポルトガル人やオランダ人などの来航が日本の社会に及ぼした影響に触れる。 ・戦国から統一政権に向かう時期の日本人の東南アジアへの渡航や、徳川幕藩体制下における長崎でのオランダ・中国との交易、対馬を通しての朝鮮との交流、中国との関わりにおける琉球の役割、アイヌを通しての北方交易など日本の交易活動について着目させる。
	エ　アジア諸国の変貌と近代の日本	・開国と明治維新、及びその後の近代化を、世界史的視野に立って理解させる。その際、ヨーロッパ文明の導入と近代化の過程については、日本と他のアジア諸国の歴史を相互に比較させるなどの工夫を行う。 ・日本と近隣諸国の関係について、世界の歴史の中での位置付けに留意して扱う。
(3) 地球社会と日本	ア　急変する人類社会	・欧米や日本で、第二次産業革命が進行し、産業構造が大きく変化することによって企業が巨大化し国家の役割が増大したことに着目させるとともに、公教育が普及し国民統合が進展したことを理解させる。
	イ　世界戦争と平和	・日清戦争、日露戦争が当時の世界情勢の中で行われたことに着目させるとともに、この時期に近代産業が成立したことや不平等条約の改正に成功したことにも触れる。 ・第一次世界大戦が日本の政治や経済などに与えた影響について触れる。 ・東アジアでの日本の動向について、中国をめぐる国際情勢の推移と日本国内の状況を照応させながら把握させるようにする。
	ウ　三つの世界と日本の動向	・戦後の世界経済については、アメリカ合衆国の経済力を背景にした国際通貨体制に支えられて、西欧や日本などが経済復興や高度成長を遂げたことや、1960年代に入ると、先進諸国と途上国の間に南北問題が顕在化してきたことを理解させる。